

建設 防災 ボランティアニュース 第 33 号

平成 21 年度総合防災訓練の開催

8月30日(日)朝8時30分から12時30分まで、「平成21年度東京都・世田谷区・調布市合同総合防災訓練」が行なわれました。この訓練は当協会において最も重要な行事の一つです。「災害時における都・区・市、各防災機関との連携の強化及び自助・共助に基づく地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を行なう」ことが目的です。

また、今年度の統一テーマは発災時における「連携」の強化と「地域防災力」の向上でした。

都建設局の協力依頼に基づき、当協会からは、世田谷区会場(世田谷公園 第二建設事務所担当)、調布市会場(調布基地跡地 北多摩南部建設事務所・西部公園緑地事務所担当)の訓練に21人が参加しました。



石原知事に説明する道家都技監

訓練の内容は、道路障害物除去訓練 積土のう設置訓練 水のう設置訓練 浸水時扉開閉訓練 防災公園の役割に関する映像の上映、整備状況等を表示するパネルの説明等でした。

講評で都知事は、「私は、今は枕元に、懐中電灯とスニーカーを準備している。こうした自助は当然のこととして、今日のような都民を啓発する大掛かりな公助訓練は必要である。」と述べ、早朝から

の訓練に慰労のことばを述べられました。また、都技監(建設局長)、関係事務所長からは、訓練への参加に対して感謝のことばがありました。

当日は前日と変わって小雨がぱらつきましたが涼しく、夏用の防災服でちょうど良い気温でした。参加会員は全員無事役割を果たし訓練を終えました。事前打ち合わせ、リハーサル、訓練当日と大変お疲れさまでした。

担当理事 中田勝司

1. 二建班の報告

(1) 道路関係訓練

本年の道路障害物除去訓練は、世田谷公園と自衛隊三宿駐屯地に挟まれた幅員14mの世田谷区道上で行われた。本訓練には、二建主体の建設局が60人、警視庁・陸上自衛隊50人、協力業者20人、総勢140人が参加。わが建設防災ボランティアは、本部から本間理事、二建班から、倭文佐一・草野郁・渡邊安清・柳川修の4人が参加した。

当日は、午前8時に隣接の青鳥特別支援学校に集合し、着替え等の準備を行ってから、歩道上に設置された本部テント前に集まり、局本部長村尾道路監・所本部長西倉二建所長からそれぞれ訓示を受け、訓練が開始された。

本訓練の主力は、何と言っても二建職員。西倉所長の指揮の下、われわれ建設防災ボランティアを含め総勢50人が作戦班・進行管理班・現場点検班等の各班に分かれ、活動した。

わが建設防災ボランティアは、現場点検1班に倭文・草野の2人が、現場点検2班に渡邊・柳川の2人が加わり、それぞれA地区の街灯・電柱・瓦礫撤去訓練、C地区の道路陥没・段差解消訓練に加わった。

現場点検班の仕事は、A地区・C地区及び周辺道路における被害状況の点検・携帯端末(レスキュー・ナビゲーション)による被害報告・道路復旧

指示・完了報告などである。

8月17日に説明会、8月19日に予行演習を行うなど、用意周到・準備万端ということもあり、本番は極めてスムーズに行われ、少し早めの11時過ぎに訓練は終了した。

最後の講評で、村尾局本部長から、知事の現場視察の際、知事から『建設局は毎年同じことをやっているな。』と言われたが、これに対し同道していた道家都技監は、『愚直に同じ訓練を行って磨きをかけ、有事の際に最大限、力を発揮できるように備えている。』と答えたとの話が披露された。

まさにその通りである。以上、今回の訓練は、新たに携帯端末を使ったレスキュー・ナビゲーションによる被災報告訓練に取り組むなど、多くの実績・教訓を残して、つつがなく終了した。



世田谷区会場の参加会員

私ども建設防災ボランティアはどれほどお役に立てたかどうか分からないが、訓練終了後、所長はじめ所の皆さんに丁寧なお礼の言葉をいただき、帰途についた。二建の皆さん、色々とお有り難うございました。そして大変お疲れ様でした。

二建班 柳川修

(2) 河川関係訓練

会場は世田谷公園に隣接する池尻2丁目広場、下水道局、消防庁、東京電力などと一緒で、幾分手狭な感もあるが、見学者にとってはコンパクトで良いのかも。主要な訓練内容は毎年行われている積み土のう訓練、水のう設置訓練に加え、昨年晴海会場で初めて行われた浸水時扉開閉訓練で、二建班の小林・野村会員、三建班からの応援の小川会員の3人が参加。

土のう、水のうの訓練は都立国際高校の生徒さんが主力、野球部などの運動部から選抜されたと

かで、てきぱきと飲み込みも早く、予定されたスケジュール通り円滑に訓練は進行した。

扉開閉訓練は、水深30センチと50センチで、水圧でいかに開閉が困難になるかを参加者に体験してもらうもので、超人気。順番待ちの列が最後まで絶えなかった。小学生ならなんとか開く30センチに比べて50センチは手ごわく、一人で開けられたのは女性は皆無、男性でも数人。



浸水時扉開閉訓練の会員と一般参加者

今年は家族連れの姿が多く、親子で力を合わせて開けたり、父親の威厳をかけて必死に開けるなどの微笑ましい姿が見られた。ちなみに世田谷区に水防情報のメール配信を登録している人は、この防災訓練の情報も配信されたそうで、05年の水害以来、区の防災施策の進展が伺われた。



土のう訓練を指導する参加会員

小さな子たちは、土のう、水のう造りにも興味深々で取り組み、参加者には帽子や飲み物のサービスも。心配された天気もばらついた程度で暑くもなく、爽やかな防災訓練でありました。

二建班 野村孝雄

2. 北南建班の報告

(1) 道路関係訓練

8月30日、調布基地跡地で行われた平成21年度の合同総合防災訓練(道路障害物除去訓練)に防災ボランティアの4人(高橋、新川、小島、内山)が参加した。

震度6弱の地震により、都道東京八王子線に倒壊した街路灯、電柱、瓦礫等があり交通不能の箇所と道路の陥没による交通不能箇所があると言う想定で道路の啓開訓練が行われた。

訓練は北南建の古川所長の指揮のもと、北南建設事務所、北多摩建設業協会、東京ガス株式会社それに東京都建設防災ボランティア協会が連携し総勢60人で行われた。

防災服に身を固め、ヘルメット、作業靴の人が整列すると、緊張感が一帯を覆い、一般の都民から見ればきっと頼もしいと感ずるに相違ない。障害物の除去はホイールローダーやユニックを使って行われるのは通常であるが、今回は新しい試みとして、レスナビやICタグを使った連絡、調査が行われ、電子技術を災害復旧現場に取り入れられていて、新鮮さが感じられた。

道路障害物除去と道路陥没復旧の訓練は、予定されていた時間の中で、トラブルもなく無事に終了したが、実際に震災が起こった場合に、どういふ被害が、どの様な時間帯に出て、どう対応するのか、想定するのは難しい。北南建の現職の職員も誰が、何時に事務所に駆けつけ、組織的な活動が出来るか、災害の有様によって異なり、なかなか想定は難しそうだ。



道路関係訓練の参加会員

その中で、我々建設防災ボランティアがどんな

役割が果たせるか。阪神淡路大震災で多くのボランティアが有効な実績を上げているが、それは災害発生から幾許の時間が経過してからのことであろう。災害発生直後に防災ボランティアが駆けつけて有効な役割を果たすためには、あらかじめ誰の指揮下で行動するのか、認識を明確にしておく必要があるように思われる。現職の時、水害などの災害対応の経験を積んでいる、我々であるから、適切な役割と指示が与えられれば、きっと一定の役割を果たせるに違いない。

北南建班 高橋和雄

(2) 河川関係訓練報告

平成21年度、調布会場の総合防災訓練に参加しました。北南建班は、朝9時、味の素スタジオ前の訓練会場に、事務所の職員の皆さん、地元府中東高校、調布南高校、三鷹高校の男子生徒の皆さん及び建設防災ボランティア(北南建班三沢、応援の南東建班矢内、南西建班田中、矢野)の総勢56人が集まりました。

台風の接近により、風が吹き、時々、小雨が降る天候でしたが、正午の知事講評まで、半日にわたり水防訓練を行いました。



積み土のう訓練の参加会員

訓練は水のう設置訓練、積み土のう訓練、排水ポンプ車訓練、浸水時扉開閉訓練です。水のう設置訓練及び積み土のう訓練は高校生が水のう作製、土のうの作製、運搬、積み上げなどの作業を行い、我々は指導をするという進行です。

高校生たちは、初めてスコップを手にしたようで、腕だけで力まかせに砂を掘っていましたが、足を使えば楽にできることを教えると、すぐにコツを飲み込み土のうの作製を行いました。ねこ車で、腰

をふらつかせながらの土のうや中詰め砂の運搬でしたが、予定の時間内で2列5段の積み土のうなどを完成させました。

訓練で子供たちの興味を引いたのは、土のう積訓練です。高校生の訓練を見た、男の子が砂山の前で「やらせてもらえるの」と聞きましたので、体験訓練というわけではありませんでしたが、「OK」とすると、父親の広げる土のうに、一生懸命、スコップで砂を詰めていました。半分ほどいれて、出来上がった土のうを持ち上げ、砂の重たさを実感したようでした。

訓練も大事ですが、いかに見学者にプレゼンテーションするかも大切だなと思った次第です。
南西建班 田中 敏夫

3. 西部公園班の報告

建設防災ボランティア西部公園班は、調布市会場(都立武蔵野の森公園)で行われた訓練に3人(湯本勝、二宮克弘、篠原憲一)が参加しました。

当日は衆議院議員選挙であったこと、あいにく、10時頃から小糠雨が降る肌寒い日でしたが、多くの人が見学に来てくれました。

公園緑地部と西部公園緑地事務所のブースは、災害時における公園緑地の役割、東京都が実施している防災公園の事業紹介、災害時に都民自ら皆の町を守る行動のヒントの提供と、地域防災力の向上と自助共助の意識向上を目的にしたパネル展示やパソコンと実物展示で防災の取り組みについて紹介、アンケート調査を行いました。



簡易防災トイレ組み立て状況

見学者の多くは、災害時に身近な問題になるトイレに関心を示し、組み立て簡易トイレをはずかし

そうに体験していました。



組み立てた簡易防災トイレと参加会員
西部公園班 篠原憲一

協会からのお知らせ

1. 救急救命講習会

今年度の講習会は、新規受講者を対象として10月27日(火)13:00から新宿消防署で開催します。なお、今回から受講費は協会負担としました。

担当理事 二宮

2. 施設見学会

大橋ジャンクション建設と街づくり

今年度の施設見学会は、今年度末の交通開放をめざしている大橋ジャンクションと周辺の街づくりの見学会を企画しております。

大橋ジャンクションは、地下36mの首都高中央環状線・山手トンネルから2回転して地上35mの高速3号渋谷線につながる、稀にみる大規模土木構造物です。

また、都施行の市街地再開発事業を中心に都・目黒区・首都高速(株)が一体となって、周辺の街づくりを進めています。

見学会は11月24日(火)午後を予定しておりますが、詳細につきましては、改めてお知らせいたします。

担当理事 堀中、藤田

発行人: 沼尻 敦

発行: 東京都建設防災ボランティア協会

所在地: 東京都新宿区西新宿2-3-1

財団法人 東京都道路整備保全公社内

編集: 加藤 基雄、中田 勝司、丸岡 敏夫